

栄養教諭に関する科目（令和6年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る教育及び教職に関する科目		学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間 真理子	
		学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間 真理子	
	70110	教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	
	70120	教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
		教育心理学	2	15	2	後期	花屋 道子	
		特別支援教育論	1	8	2	後期	石崎 毅	短大と合同授業
		教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
		教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	集中
		I C T活用の理論と方法	1	8	3	前期	篠田 伸夫	集中 短大と合同授業
		道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	( ) 安倍 啓司 足立 佳菜	集中 集中 集中
		生徒指導論	2	15	3	後期	棚村 正	
		教育相談論	1	8	3	前期	花屋 道子	短大と合同授業
		栄養教育実習	2		4	前期	安部・井間・花屋	集中
		栄養教育実習事前事後指導	1		3~4	摘要参照	安部・井間・花屋	3年後期~4年前期
		教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	安部・井間・花屋	

※ 2年次以降の担当者は令和6年度のものであり、変更になる場合がある。

栄養教諭に関する科目（令和5年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る教育及び教職に関する科目		学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間 真理子	
		学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間 真理子	
		教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	
		教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
	70130	教育心理学	2	15	2	後期	花屋 道子	
	70131	特別支援教育論	1	8	2	後期	石崎 毅	短大と合同授業
	70140	教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
	70150	教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	集中
		I C T活用の理論と方法	1	8	3	前期	篠田 伸夫	集中 短大と合同授業
		道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	( ) 安倍 啓司 足立 佳菜	集中 集中 集中
		生徒指導論	2	15	3	後期	棚村 正	
		教育相談論	1	8	3	前期	花屋 道子	短大と合同授業
		栄養教育実習	2		4	前期	安部・井間・花屋	集中
		栄養教育実習事前事後指導	1		3~4	摘要参照	安部・井間・花屋	3年後期~4年前期
		教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	安部・井間・花屋	

※ 3年次以降の担当者は令和6年度のものであり、変更になる場合がある。

栄養教諭に関する科目（令和4年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る教育及び教職に関する科目	70010	学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間 真理子	
	70020	学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間 真理子	
		教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	短大と合同授業  集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中
		教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
		教育心理学	2	15	2	後期	沼山 博	
		特別支援教育論	1	8	2	後期	石崎 毅	
		教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
		教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	
	70155	I C T活用の理論と方法	1	8	3	前期	篠田 伸夫 ( )	
	70165	道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	安倍 啓司 足立 佳菜	
	70170	生徒指導論	2	15	3	後期	棚村 正	
	70180	教育相談論	1	8	3	前期	花屋 道子	
		栄養教育実習	2		4	前期	安部・井間・花屋	
	70200 (70203)	栄養教育実習事前事後指導	1		3~4	摘要参照	安部・井間・花屋	
	教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	安部・井間・花屋		

※ 4年次の担当者は令和6年度のものであり、変更になる場合がある。

栄養教諭に関する科目（令和3年度入学生用）

科目区分	科目コード	科目名	単位	回数	学年	開講	担当教員	摘要
栄養に係る科目		学校栄養教育論	2	15	3	前期	井間真理子	
		学校栄養実践論	2	15	3	後期	井間真理子	
教職に関する科目		教職論	2	15	1	前期	安部 貴洋	短大と合同授業  集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中 集中
		教育原理	2	15	1	後期	安部 貴洋	
		教育心理学	2	15	2	後期	沼山 博	
		特別支援教育論	1	8	2	後期	石崎 毅	
		教育制度論	2	15	2	前期	下村 一彦	
		教育課程・方法論	2	15	2	前期	朝倉 充彦	
		I C T活用の理論と方法	1	8	3	前期	篠田 伸夫	
		道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間指導論	2	15	3	前期	沼山 博 安倍 啓司 棚村 正	
		生徒指導論	2	15	3	後期	棚村 正	
		教育相談論	1	8	3	前期	沼山 博	
	70190	栄養教育実習	2		4	前期	安部・井間・花屋	
	70200 (70204)	栄養教育実習事前事後指導	1		3~4	摘要参照	安部・井間・花屋	
70210	教職実践演習（栄養教諭）	2	15	4	後期	安部・井間・花屋		

講義科目名称：学校栄養教育論（70010）

授業コード：70010

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
井間 眞理子			
栄養に係る教育に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学校組織における栄養教諭が持つ役割や児童生徒の様々な現状と課題を理解するとともに、学校給食の教育的意義を学修する。到達目標は、栄養教諭としての使命感を持ち、教育的な資質と栄養に関する専門性を身につけることができる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、栄養教諭制度の理解と栄養教諭の役割	
	第2回	学校組織の理解と栄養教諭の位置づけ	
	第3回	学校給食の食事内容と食文化、地場産物と郷土食の活用	
	第4回	子どもの発達と食生活の実態と課題、学校給食摂取基準	
	第5回	学校給食における衛生管理	
	第6回	学習指導要領の趣旨と食育のあり方	
	第7回	食育の全体計画と指導計画の実際	
	第8回	食育指導の評価、特別支援学校における食育	
	第9回	給食の時間における食育の実際	
	第10回	各教科等における食育の実際	
	第11回	個別栄養相談指導の意義と方法	
	第12回	家庭・地域との連携、食育活動・食育教材の実際	
	第13回	食に関する指導の実際、指導方法・内容の検討	
	第14回	世界の給食事情	
	第15回	まとめ	
成績評価・方法	試験70%、レポート20%、発表10%		
授業概要	栄養教諭制度創設の経緯と背景のほか、具体的な職務内容、学校給食の歴史や現状、児童生徒の健康・栄養に関わる現状と課題等を理解できるよう講義を進める。		
実務経験及び授業の内容	小中学校及び教育事務所で栄養教諭としての実務経験があり、この経験を活かして実体験の話しを交えながら、現実を受け止め対応できる栄養教諭の育成を目指した講義を行う。		
時間外学習	講義を踏まえて、教科書と配布プリントを読み直し理解する。		
教科書	金田雅代編著 4訂 栄養教諭論第2版－理論と実際－（建帛社、3,080円）978-4-7679-2119-8 大学内の購買部で購入可能		
参考文献	文部科学省 食に関する指導の手引」第二次改訂版（健学社、1430円）978-4-8278-1575-7 文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 9784491034614 文部科学省 小学生用食育教材 文部科学省 中学生用食育教材  （いずれも、書籍以外に文部科学省ホームページから入手可能） その他、文部科学省による資料等を適宜印刷し、配布する。		
履修条件	教職に関する科目を履修していること。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
井間 眞理子			
栄養に係る教育に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	児童生徒の生涯にわたる健康づくりをめざし、新学習指導要領と食に関する指導の目的を理解するとともに、食に関する指導に役立つ学習指導案と学校給食献立の作成方法を学修する。到達目標は、栄養教諭に必要とされる食に関する指導を推進する能力と実践力を身につけることができる。
授業計画	<p>第1回 食に関する指導の学習指導案作成の基本</p> <p>第2回 小学校学習指導案の作成①</p> <p>第3回 小学校学習指導案の作成②</p> <p>第4回 小学校学習指導案の完成</p> <p>第5回 中学校学習指導案の作成</p> <p>第6回 中学校学習指導案の完成</p> <p>第7回 食に関する指導の模擬実践と意見交換①</p> <p>第8回 食に関する指導の模擬実践と意見交換②</p> <p>第9回 食に関する指導の模擬実践と意見交換③</p> <p>第10回 食に関する指導の模擬実践と意見交換④</p> <p>第11回 食に関する指導に関連した学校給食献立の作成①</p> <p>第12回 食に関する指導に関連した学校給食献立の作成②</p> <p>第13回 食に関する指導に関連した学校給食献立の実施①</p> <p>第14回 食に関する指導に関連した学校給食献立の実施②</p> <p>第15回 食に関する指導に関連した学校給食献立の実施③、まとめ</p>
成績評価・方法	作成物及び発表90%、授業への参加度10%
授業概要	児童生徒の生涯にわたる健康づくりをめざし、学習指導要領における各教科の内容と食に関する指導の接点を理解した上で、食に関する指導で活用できる学習指導案と学校給食献立を作成する。
実務経験及び授業の内容	小学校及び教育事務所で栄養教諭としての実務経験があり、この経験を活かして実体験の話しを交えながら、現実に受け止め対応できる栄養教諭の育成を目指した講義を行う。
時間外学習	学習指導案作成に役立つ資料の収集や、模擬授業の練習を自主的に進めておくこと。
教科書	金田雅代編著 4訂 栄養教諭論第2版－理論と実際－（建帛社、3,080円）
参考文献	<p>文部科学省 『食に関する指導の手引－第二次改訂版－』（健学社、1430円）</p> <p>文部科学省 『栄養教諭による食に関する指導実践事例集』</p> <p>文部科学省 小学生用食育教材</p> <p>文部科学省 中学生用食育教材</p> <p>（いずれも、書籍以外に文部科学省ホームページから入手可能）</p>
履修条件	「学校栄養教育論」を履修していること。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：現代社会における教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容 到達目標： (1)現代社会における教職の意義を説明できる。 (2)教職観の歴史の変遷と現代社会において求められている教職像を説明できる。 (3)教員の基礎的な資質と職務・義務を説明できる。 (4)教員研修の意義と制度上の位置づけ、生涯学びつづけることの必要性を説明できる。 (5)学校の内外の専門家との連携の必要性を説明できる。		
授業計画	第1回	授業概要と授業計画の説明 教職論を学ぶことの意味 教職論全体の把握と自身の教職観の確認	
	第2回	現代社会における教師・教員の役割	
	第3回	教師論 近代教育思想史における教師 ルソー、ペスタロッチ、デューイ等における教師像	
	第4回	歴史のなかの教師（1）明治・大正・昭和（戦前） 近代学校成立から戦前までの学校教育と教師像の変化	
	第5回	歴史のなかの教師（2）戦後 戦後から現在までの学校教育と教師像の変化	
	第6回	教師の職務（1）授業の構成と評価 授業とは、授業における教師と子どもの関係、授業を構成する要素	
	第7回	教師の職務（2）カリキュラムのデザイン カリキュラムとは、教育課程編成の基本原理や主体、教育課程の歴史的展開	
	第8回	教師の職務（3）教員組織とチーム学校 教員組織、チームとしての学校と必要性や課題	
	第9回	教師の養成と研修制度 教員の養成から採用後の研修、生涯学びつづけることの意義	
	第10回	教師と教育法規 日本国憲法・教育基本法・学校教育法など 教育法規の全体像と基本的事項	
	第11回	教員の義務と身分保障 教員の社会における位置づけ、教員の義務と身分に関する法的規定	
	第12回	教師の専門性 反省的实践家とカウンセリングマインド 反省的实践家としての教師の特質、子ども理解の基本	
	第13回	教師と学校経営 学校経営と学級経営、学校組織に関する基本的事項	
	第14回	教育改革と教師 転換期の学校と教師の使命 近代学校成立から変革期までの歴史的展開と求められる教師像	
	第15回	理解度の確認と総括 教職論の振り返りと自身の教職像の変化の確認 定期試験	
成績評価・方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業内提出物(30%)		
授業概要	教職論は「現代社会における教職の意義」「教員の役割・資質能力・サービス内容等」からなる。「現代社会における教職の意義」では西洋近代思想における教師像、日本の戦前から現在までの教師観の変遷をもとに現代社会における教職の意義を理解する〔第2回～第5回〕。「教員の役割・資質能力・サービス内容等」では教師・教員の具体的な職務を通して教師・教員の基礎的な資質と職務内容・義務、教員研修の意義、学校内外の専門家との連携の必要性を理解する。また授業全体を通して自らの教職観の深まりを確認する。 授業は「講義」「グループワーク」「感想等の記入」等からなる。グループワークによって授業内容を確認するとともに、教育に関する多様な意見にふれ、自らの考えを深める。また、授業毎に感想等を記入する。（提出された感想等にはコメントを付し返却するとともに、授業で紹介し学びを深めるための教材とする。）		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業前に前回の授業内容を確認するとともにシラバスを参考に授業内容を把握する。授業後は授業内容の確認、授業時の疑問等の解消に努めるとともに、様々なメディアで教職に関する最新の情報等にふれる。		
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。		
参考文献	秋田喜代美・佐藤学〔編著〕『新しい時代の教職入門 改訂版』（有斐閣、2016年） 高見茂・田中耕治・矢野智司〔編著〕『教職教養講座第1巻 教職教育論』（協同出版、2017年）		

	文部科学省『小学校学習指導要領』
履修条件	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育の理念と教育の歴史及び思想、現代における教職の使命</p> <p>到達目標：</p> <p>(1)教育の意義と目的が説明できる。</p> <p>(2)近代教育の歴史と思想が説明できる。</p> <p>(3)日本と諸外国の教育制度と実践が説明できる。</p> <p>(4)教育の現状と課題を説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 授業概要と授業計画 教育原理を学ぶ理由</p> <p>第2回 教育の意義と目的 教育の本質と人間存在</p> <p>第3回 教育と児童福祉 子どもの人権にかかわる法律と制度</p> <p>第4回 子どもの社会化と教育の役割 人格形成の基盤としての学校・家庭・地域社会</p> <p>第5回 諸外国の近代教育の思想と歴史 (1) コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチなど</p> <p>第6回 諸外国の近代教育の思想と歴史 (2) フレーベル、ヘルバルト、デューイなど</p> <p>第7回 日本の近代教育の思想と歴史 明治公教育と教育勅語、大正新教育、戦時下の学校と教育</p> <p>第8回 子ども像と教育観の変遷 〈子ども〉期の発見と「教育」の誕生、その歴史的展開</p> <p>第9回 教育の制度 学校制度の成立と展開、学校体系、教育制度改革の動向</p> <p>第10回 教育課程の編成と教育評価 カリキュラムの定義と編成原理、教育評価の定義と歴史的展開</p> <p>第11回 日本と諸外国の実践 シュタイナー、モンテッソーリ、レッジョ・エミリアなど</p> <p>第12回 現代社会の諸問題と教育課題 (1) 教育の病理現象 (いじめ、自殺、体罰、不登校など)</p> <p>第13回 現代社会の諸問題と教育課題 (2) 教師と学校の役割</p> <p>第14回 現代社会における教育の理念と教師の役割</p> <p>第15回 理解度の確認と総括</p> <p>定期試験</p>
成績評価・方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業内提出物(30%)
授業概要	<p>教育原理は「教育の基本的概念」「近代教育の思想と歴史」「現代日本の教育と教育課題」からなる。「教育の基本的概念」では「教育とは何か」等の問いを通して教育に関する基本的な概念を確認する[第2回～第4回]。「近代教育の思想と歴史」では近代教育思想とその歴史的展開を通して教育観、子ども観の変遷を理解する[第5回～第8回]。「現代日本の教育と課題」では現代日本の教育制度・教育課程・教育評価、そして教育課題を通して、現代社会における教育の意義を理解する。</p> <p>授業は「講義」「グループワーク」「感想等の記入」等からなる。グループワークによって授業内容を確認するとともに、教育に関する多様な意見にふれ、自らの考えを深める。また、授業毎に感想等を記入する。(提出された感想等にはコメントを付し返却するとともに、授業で紹介し学びを深めるための教材とする。)</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業前に前回の授業内容を確認するとともにシラバスを参考に授業内容を把握する。授業後は授業内容の確認、授業時の疑問等の解消に努めるとともに、授業で学んだことを小説や映画等の様々なメディアで深める。
教科書	使用しない。適宜、授業資料を配布する。
参考文献	<p>田中智志・今井康雄[編]『キーワード 現代の教育学』(東京大学出版会、2009年)</p> <p>木村元・汐見稔幸[編著]『アクティベート教育学1 教育原理』(ミネルヴァ書房、2020年)</p> <p>今井康雄[編]『教育思想史』(有斐閣、2009年)</p>

	鈴木晶子・山名淳・駒込武 [編著] 『教職教養講座第2巻 教育思想・教育史』(協同出版、2018年) 高見茂・杉本均・南部広考 [編著] 『教職教養講座第13巻 教育制度』(共同出版、2018年) 教育思想史学会 [編] 『教育思想事典 増補改訂版』(勁草書房、2017年) 教育哲学会 [編] 『教育哲学事典』(丸善、2023年)
履修条件	教職論を履修しておくこと。
備考	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
花屋 道子			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の理解 到達目標： 1) 児童及び生徒の心身の発達をもたらす外的、内的要因の相互作用について、発達に関する代表的な理論を踏まえながら解説できる。 2) 特に乳幼児期から青年期に至る各時期の発達の特徴について、身体、運動、認知、社会性などの各側面から解説できる。 3) さまざまな学習の形態や課程について、代表的な学習理論を踏まえながら説明できる。 4) 1)～3)を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導のあり方を解説できる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション：教育心理学とは	
	第2回	発達の理論	
	第3回	発達の理解①—胎児期から乳児期まで—	
	第4回	発達の理解②—幼児期から児童期まで—	
	第5回	発達の理解③—思春期から青年期まで—	
	第6回	発達の理解④—成人期から老年期まで—	
	第7回	学習の諸問題①—人間の認知と学習—	
	第8回	学習の諸問題②—効果的な学習指導—	
	第9回	学習の諸問題③—動機づけ—	
	第10回	学習の諸問題④—学校という体験—	
	第11回	知能と学力の理解	
	第12回	パーソナリティの理解	
	第13回	学級集団の理解	
	第14回	子どものニーズに応じた支援	
	第15回	まとめ 主体的な学びを支援するための授業づくりについて考える	
成績評価・方法	期末レポート（予定）60%、講義への取り組み（コメントペーパー等）40%		
授業概要	次の①～⑤について概説する。①幼児、児童生徒の心身の発達、②人間が新しい行動や能力を獲得する過程と学習理論、③幼児、児童及び生徒の学習の過程や発達を基盤とする教育指導、④幼児、児童及び生徒の個性と特徴を理解する視点、⑤①～④を踏まえて、主体的な学習活動を支える指導のあり方を考察する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義で配布した資料を用いて、予習・復習をすること。		
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
履修条件	教育原理、心理学を履修しておくこと。		
備考	授業の進度によって、授業計画が変更になる場合があります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
石崎 毅			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ 特別支援教育への理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性や心身の発達を理解するとともに、その教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>(2) 障害はないが、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p> <p>以上により、合理的配慮の概念を基礎として、配慮を必要とする子どもたちや人々への理解を深め、学校教育におけるインクルーシブ教育システムや社会生活における困り感のある人々との関わりについて考えていくことのできる力を育む。</p>		
授業計画	第1回	「特別支援教育論を学ぶ上で大切な姿勢」と「様々な発達障害」 オリエンテーション	
	第2回	通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎① (ADHD：注意欠如多動性障害)	
	第3回	通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎② (LD：限局性学習障害)	
	第4回	通常学級に在籍する特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎③ (ASD：自閉症スペクトラム)	
	第5回	障害ではないが特別の支援が必要な児童生徒の困り感への支援の基礎 (日本語指導、LGBT、マルトリートメント、等)	
	第6回	学校におけるチーム支援と外部機関との連携及び個別支援計画	
	第7回	通級による指導と自立活動	
	第8回	特別支援教育の制度とインクルーシブ教育の今後	
成績評価・方法	授業・ワークシート（関心意欲態度・思考）70% 期末課題又は定期試験（知識理解・思考）30%		
授業概要	特別支援教育のあり方や制度及び、通常学級に在籍する特別の支援を必要とする児童生徒の障害について学ぶとともに、すべての児童生徒たちが達成感を持ちながら生きる力を身につけていくための具体的な支援方法を考えることを通して、特別支援教育についての理解を深めていきます。		
実務経験及び授業の内容	中学校及び小中一貫校や在外教育施設で特別支援教育コーディネータや学校心理士として勤務した実務経験を生かして事例研究などを盛り込み、実践力を育む講義を行います。		
時間外学習	必要に応じて予習を課します。意見が述べられるように準備してください。		
教科書	必要に応じて資料を配布します。		
参考文献	「特別支援学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「DSM-4」「DSM-5」（アメリカ精神医学会著 日本精神神経学会訳）		
履修条件			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
下村 一彦			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	(1)現代公教育制度、(2)学校と地域との連携や協働、(3)学校安全をテーマとする。 (1)では、公教育制度の法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、内在する課題を理解すること、 (2)では、地域の状況や協働の事例を踏まえながら、連携の意義や留意点を理解すること、(3)では、事故等の状況を踏まえながら、学校保健安全法に基づく学校安全の目的と具体的な取組を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 公教育制度（1）公教育の三原則（義務制・無償制・中立性）の理念</p> <p>第2回 公教育制度（2）多文化社会における公教育の三原則</p> <p>第3回 諸外国の教育制度や改革の動向</p> <p>第4回 我が国における公教育制度成立と戦前の問題点</p> <p>第5回 我が国の教育関係法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）</p> <p>第6回 我が国の教育行政と仕組み（1）開放制教員免許と更新制度</p> <p>第7回 我が国の教育行政と仕組み（2）教育委員会制度と総合教育会議</p> <p>第8回 我が国の教育行政と仕組み（3）教科書検定と採択</p> <p>第9回 我が国の教育行政と仕組み（4）生涯学習</p> <p>第10回 学校と地域との連携について（1）開かれた学校づくりの理念と情報発信</p> <p>第11回 学校と地域との連携について（2）世代間交流の観点からみる連携による教育活動の意義</p> <p>第12回 学校と地域との連携について（3）地域との協働による教育環境整備</p> <p>第13回 学校安全への対応について（1）学校保健安全法に基づく安全管理</p> <p>第14回 学校安全への対応について（2）事件や事故の実例と対応</p> <p>第15回 学校安全への対応について（3）リスクとハザードを踏まえた安全教育</p>
成績評価・方法	レポート100%
授業概要	公教育制度に関しては、今日の法制度が整備された背景を含め、制度の原理や概要を理解することで、今日的課題への視野を培う。地域との連携と安全教育に関しては、関連法規と理念を理解した上で、事例を通して実践への土台を築く。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後にノートと照らし合わせてテキストを再度確認し、他者に説明できるようにまとめておく(2時間15回)新聞等の報道を通して今日の教育問題や改革の動向への理解を深める(毎週合計2時間 15週)
教科書	牛渡淳編著『新版 初めて学ぶ教育の制度・行政・経営論』金港堂、2020年。 3,300円 ISBN:978-4-87398-131-4
参考文献	
履修条件	
備考	シラバス内容に変更が生じる場合は、その都度説明します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	2	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
朝倉 充彦			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ&gt; 教育課程・教育方法の理論と実践</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校教育における教育課程の役割・目的や、学習指導要領の性格および変遷について説明できる。</li> <li>2. 教育課程編成の基本原則とその方法について説明できる。</li> <li>3. カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明できる。</li> <li>4. 教育方法や学習指導の基礎理論について説明できる。</li> <li>5. 最新学習指導要領における教育課程や教育方法についての考え方を説明できる。</li> <li>6. 授業づくりにおける教室環境や教育技術、情報機器の役割について説明できる。</li> <li>7. 教育評価の基礎理論について説明できる。</li> <li>8. 1～7を踏まえ、学習指導案を作成することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、教育課程・教育方法とは何か</p> <p>第2回 カリキュラムの種類と歴史</p> <p>第3回 教育課程編成の基本原則</p> <p>第4回 学習指導要領（1）：学習指導要領の変遷</p> <p>第5回 学習指導要領（2）：最新学習指導要領の特徴</p> <p>第6回 カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>第7回 教育課程編成の方法</p> <p>第8回 教育方法の基礎理論（1）：教育方法・学習指導の対象と原理</p> <p>第9回 教育方法の基礎理論（2）：教育方法・学習指導の歴史</p> <p>第10回 教育方法の基礎理論（3）：授業づくりと教育技術</p> <p>第11回 教育方法の基礎理論（4）：学級と個別化</p> <p>第12回 情報機器及び教材を活用した授業づくり</p> <p>第13回 教育評価の基礎理論</p> <p>第14回 アクティブラーニングの授業プラン作成</p> <p>第15回 アクティブラーニングの授業実践</p>
成績評価・方法	授業内小レポート40%。発表やディスカッション等での積極的な意見発表状況30%。最終課題レポート30%。
授業概要	前半は教育課程について概説する。まず学校教育における教育課程の役割・目的、学習指導要領の性格・位置づけを取りあげ、次に教育課程編成の基本原則やその方法、カリキュラム・マネジメントの意義や重要性について説明する。後半は、教育方法について概説する。まず教育方法や学習指導、教育評価の基礎理論を取りあげ、それらの歴史を踏まえながら、最新学習指導要領における考え方も考察する。次に、授業づくりをする上での、教室環境や教育技術、情報機器・教材の役割について解説する。以上を踏まえ、受講生に学習指導案を作成してもらい、さらにグループディスカッションを行って、指導案のブラッシュアップを図る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。授業中にわからなかった語句の意味を調べる。学習時間は、1時間程度とする。
教科書	最新版「小学校学習指導要領」、その他資料を適宜配布する。
参考文献	講義内で適宜紹介する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(集中)	3	1	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
篠田 伸夫			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ:情報通信技術(ICT)を効果的に活用した 学習指導や校務の推進の在り方および、児童及び生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>到達目標:(1)情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。(2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。(3)児童及び生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 現代社会におけるICTの役割 ICTの歴史を概観し、現代社会の特徴とICTの役割について概説する。</p> <p>第2回 情報発信・情報コミュニケーションとモラル 情報コミュニケーションについて概説し、ICT利活用時のモラルについて考察する。</p> <p>第3回 ICTを活用した学習指導とデジタルコンテンツの活用 学習指導におけるICTの活用例を紹介し、ICTの広範な利用例について解説する。</p> <p>第4回 個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT の活用と遠隔授業 集団・個別/対面・遠隔等学習場面の違いとICTの利活用について考察する。</p> <p>第5回 児童生徒による ICT 活用 児童生徒の発達段階について概説し、発達段階に応じたICT機器活用について考察する。</p> <p>第6回 児童生徒の情報活用能力の育成 情報活用能力の側面からみた授業と児童生徒の学習活動の事例を紹介する。</p> <p>第7回 校務の情報化とデータの活用 校務の実際について概説し、ICTによる仕事の変化や、データ活用について紹介する。</p> <p>第8回 最新のICTと教育場面への適用 ICTの最新情報について解説し、将来の教育場面への応用について考察する。</p>
成績評価・方法	小レポート 50%, 筆記試験 50%
授業概要	主に資料を提示しながらICT機器の活用について演習形式で講義を行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習または復習のための課題資料を提示するので事前に読んでまとめておくこと。
教科書	授業時に資料を提示
参考文献	授業時に紹介します
履修条件	
備考	

講義科目名称： 道徳教育. 特別活動. 総合的な学習の時間指導論 授業コード： 70165

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安倍 啓司・足立 佳菜・（未定）			
教職に関する科目			授業形態・講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>&lt;授業のテーマ及び到達目標&gt; この時間は、道徳教育、特別活動及び総合的な学習の時間の意義や目標、特質など、指導に必要な知識や素養を身に付ける。到達目標は次の9つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育課程における道徳教育の位置づけや意義・役割を説明できる。</li> <li>2) 道徳教育の目標、内容等の概要について説明できる。</li> <li>3) 「特別の教科 道徳」における児童観、教材観、指導観を説明できる。</li> <li>4) 特別活動の意義や役割、目標及び内容を理解する。</li> <li>5) 集団活動の意義を理解し、指導のあり方を理解する。</li> <li>6) 生徒会活動、学校行事、クラブ活動、及び学級活動の内容と指導のあり方を理解する。</li> <li>7) 総合的な学習の時間の意義や役割、目標及び内容を理解する。</li> <li>8) 総合的な学習の時間の指導計画の考え方や重要性を理解する。</li> <li>9) 食に関する指導の指導案を作成し、模擬授業を行い、実践上の留意点を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 総合的な学習の時間の意義と役割（ ）</p> <p>第2回 総合的な学習の時間の目標と内容（ ）</p> <p>第3回 総合的な学習の時間の指導計画（ ）</p> <p>第4回 特別活動と集団活動の意義（安倍）</p> <p>第5回 特別活動の目標と内容、学級活動の目標と内容（安倍）</p> <p>第6回 学級活動の指導計画と人間関係づくり（安倍）</p> <p>第7回 児童会・生徒会、クラブ活動、学校行事の特質と活動例（安倍）</p> <p>第8回 話し合い活動の指導—学級活動内容（1）と（2）（3）（安倍）</p> <p>第9回 学級活動における食に関する指導の指導案の作成と検討（安倍）</p> <p>第10回 食に関する指導の模擬授業と特別活動の今日的課題（安倍）</p> <p>第11回 道徳に関する現代的課題（足立）</p> <p>第12回 道徳・道徳教育とは（足立）</p> <p>第13回 道徳教育の歴史と学校における道徳教育の基本（足立）</p> <p>第14回 「特別の教科 道徳」の概要および評価（足立）</p> <p>第15回 道徳の指導法および教師の役割（足立）</p>
成績評価・方法	テスト・課題・授業内レポート50%、授業への取り組み50%
授業概要	次の点について、講義に適宜グループワークを組み合わせる。①道徳教育の歴史と今日的課題、②道徳の本質、③道徳教育の意義や役割、目標及び内容、④道徳性の発達、⑤道徳教育における児童観、教材観、指導観、⑥特別活動の意義や役割、目標及び内容、⑦集団活動の意義と指導、⑧学級活動、生徒会活動、クラブ活動、及び学校行事の内容と指導、⑨学校と家庭・地域との連携、⑩総合的な学習の時間の意義や役割、目標及び内容、⑪総合的な学習の時間の指導計画、⑫「食に関する指導」の指導案作成および模擬授業
実務経験及び授業の内容	特別活動の担当者は、公立小学校での指導経験があり、この経験を生かし授業を行う。
時間外学習	授業中にわからなかった語句を調べたり、授業の要約をして学習内容を整理すること。教材研究の準備を行うこと。ニュースや新聞をチェックし、関心のあるトピックを記録すること。
教科書	小・中学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省 小・中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 小・中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省

	食に関する指導の手引－第1次改訂版－ 文部科学省
参考文献	適宜講義で紹介する。
履修条件	
備考	集中講義のため、日程等に注意すること。 ※担当教員が未定の授業計画は、前年度の内容を記載しているため参考程度にご覧ください。 ※本科目における講義計画は、担当教員が決定し次第更新しますので、学務システムからご確認ください。

講義科目名称：生徒指導論（70170）

授業コード：70170

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
棚村 正			
教職に関する科目			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生徒指導の考え方と進め方の基本的な知識と素養を身につける。 到達目標 ①生徒指導の意義と理論を理解する ②生徒指導の機能と進め方を理解する ③生徒指導の様々な場における指導の実際について理解する ④生徒指導上の様々な課題への対応のあり方を理解する
授業計画	<p>第1回 生徒指導の意義</p> <p>第2回 生徒指導の理論</p> <p>第3回 生徒指導の方法と計画</p> <p>第4回 生徒理解 ① 児童生徒の実態</p> <p>第5回 生徒理解 ② 生徒理解の方法</p> <p>第6回 生徒理解 ③ 生徒理解の具体的な手立て</p> <p>第7回 生徒指導の実際 ① 全体的な指導と個別的な指導</p> <p>第8回 生徒指導の実際 ② 教科等の学習における指導</p> <p>第9回 生徒指導の実際 ③ 校内外との連携</p> <p>第10回 生徒指導とカウンセリングマインド</p> <p>第11回 生徒指導と学級づくり</p> <p>第12回 不適応行動等の理解と対応 ① 不登校</p> <p>第13回 不適応行動等の理解と対応 ② いじめ</p> <p>第14回 不適応行動等の理解と対応 ③ 反社会的行動・非社会的行動</p> <p>第15回 生徒指導の今日的な課題</p>
成績評価・方法	期末試験60% 課題20% 講義への取り組み20%
授業概要	到達目標の①②については、講義とグループ学習を組み合わせることで活動的に取り組み、到達目標③④については、事例を通してより具体的に学ぶことができるようにする。
実務経験及び授業の内容	教員として現場で38年間勤務した経験を生かして授業を行う
時間外学習	日頃から読書やメディアそして実生活を通して、テーマについて考えること
教科書	中学校学習指導要領 総則編
参考文献	文部科学省 「生徒指導提要」（2022改訂版）
履修条件	2年前期までの教職科目すべてを履修しておくこと
備考	教材等の都合により、授業計画が変更される場合があります



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
花屋 道子			
教職に関する科目			授業形態：講義
授業のテーマ及び到達目標	テーマ：教育相談の理論と方法 到達目標： 1) 教育相談の意義と課題を理解している。 2) 児童生徒の適応を支える方略について、理論に基づいた立案ができる。 3) 教育相談を進める際に必要な心理学やカウンセリングに関する基礎的な理論や概念を理解している。 4) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解している。		
授業計画	第1回 教育相談の意義と成り立ち—生徒指導と教育相談— 第2回 教育相談の課題①—問題行動・症状の隠れた意味に関する諸理論— 第3回 教育相談の課題②—問題行動・症状の一般的経過と有効なかかわり— 第4回 教育相談の方法①—児童生徒理解を歪める現象とそれを避ける手立て— 第5回 教育相談の方法②—気になる行動を示す児童生徒の心理的背景と特徴— 第6回 教育相談の方法③—教育相談における保護者とのかかわり、校内での組織的な取組みや地域の専門機関との連携の必要性について— 第7回 共感的カウンセリング論①—カウンセリングの基本的姿勢— 第8回 共感的カウンセリング論②—カウンセリングの技法— 第9回 試験		
成績評価・方法	期末試験60%、授業への取り組み（小レポート等）40%		
授業概要	学校における教育相談について、①教育相談の意義と課題、②教育相談の理論、③教育相談の方法の3点から概説する。		
実務経験及び授業の内容	スクールカウンセラーとしての経験を踏まえ、カウンセリングの基礎についてより実践的な講義を行う。		
時間外学習	配布資料を用いて、予習・復習すること。		
教科書	教科書は使用せず、講義資料を配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
履修条件			
備考	実際に人とかかわる演習を行う場合があるので、留意して受講すること。 授業の進度によって、授業計画が変更になる場合があります。		

講義科目名称：栄養教育実習（70190）

授業コード：70190

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（集中）	4	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋・井間 眞理子・花屋 道子			
教職に関する科目			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：栄養教諭としての実務を体験する</p> <p>到達目標：</p> <p>①学校教育の意義と役割を理解する。</p> <p>②栄養教諭の職務と役割、及び学級担任や養護教諭との連携の意義を理解する。</p> <p>③児童の心身の発達と生活について理解する。</p> <p>④「食に関する指導」の意義と役割を理解する。</p> <p>⑤「食に関する指導」の担当者として、指導計画や指導案の作成、教材研究などを行うとともに、給食や学級活動の時間などで授業実践を行うことで、効果的な指導法や子どものかかわりを考察できる。</p> <p>⑥学校給食経営管理の実際を経験し、学校給食の意義や留意点を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 栄養教育実習オリエンテーション</p> <p>第2～29回 小学校（もしくは中学校）教育の観察・参加・実習 学校給食経営管理と食に関する指導</p> <p>第30回 まとめ</p>
成績評価・方法	実習校からの評価を踏まえ、実習日誌や教育実習レポートも参考にしながら評価する。
授業概要	小・中学校における実習である。3年次までの教職科目等で履修した教育や栄養学に関する知見や技術を踏まえて、教育実践を実地で体験することを通して、教職に関する基礎的指導力の基礎を身につける。また、栄養教諭としての自らの適性を考察し、教員としての資質向上を目指す。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	研究授業へ向けた指導案の作成・教材研究、学生立案献立がある場合は献立や試食の作成、「実習日誌」の記載の3点を行うこと。
教科書	「食に関する指導の手引－第2次改訂版－」（文部科学省） ※次のURLで公開されています。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm</a>
参考文献	
履修条件	①3年次までに開講されている教職科目のすべてを履修していること。 ②4年次前期に開講されている「栄養教育実習事前事後指導」を同時に履修すること。
備考	実習の具体的な日程については、実習校の指示に従ってください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期～4年前期	3～4	1	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋・井間 眞理子・花屋 道子			
教職に関する科目			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：教育実習の準備とふりかえり 到達目標</p> <p>①教育実習に必要な具体的事項を理解することを通して、実習へ向けた姿勢や心構えができる。 ②教育実習に必要な具体的事項を理解し、教材研究や指導案作成、模擬授業等、実習へ向けた具体的な準備をすることができる。 ③教育実習の体験を意義づけ、自らの教員としての適性と資質向上のために必要な課題を考えることができる。 ④①～③について教育実習報告会で発表することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 教育実習オリエンテーション</p> <p>第2回 教育実習の意義・目的・心得</p> <p>第3回 実習校とのかかわり（1） 実習校との連絡と提出物について</p> <p>第4回 実習校とのかかわり（2） 実習校への提出物の作成</p> <p>第5回 実習日誌の書き方</p> <p>第6回 指導案の作成と教材研究（1）</p> <p>第7回 指導案の作成と教材研究（2）</p> <p>第8回 模擬授業</p> <p>第9回 小・中学校における教育について 教育委員会指導主事による講話</p> <p>第10回 小・中学校における生徒指導について 教育委員会指導主事による講話</p> <p>第11回 教育実習のふりかえり（1） レポート作成</p> <p>第12回 教育実習のふりかえり（2） 教育実習報告会のための話し合い</p> <p>第13回 教育実習のふりかえり（3） 教育実習報告会の準備</p> <p>第14回 教育実習のふりかえり（4） 教育実習報告会</p> <p>第15回 教育実習のまとめ 教員としての適性と資質向上のために必要な課題を考える</p>
成績評価・方法	授業への取り組みや提出物、教育実習報告会での発表、合わせて100%
授業概要	栄養教育実習の事前と事後において、実習の準備と振り返りに関する指導を行う。実習前には教育実習の意義や目的、心得をはじめ、教育現場の教育活動に必要とされる知識や態度について理解を深める。合わせて、「食に関する指導」の研究授業へ向けて、指導案の作成や模擬授業を行う。実習後には報告会準備や報告会発表を通して、実習の振り返りを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	「食に関する指導」「学校給食経営管理」を中心に、実習へ向けて必要なことを主体的に見つけ、準備を進めておくこと。実習終了後は「実習日誌」に実習の振り返り・総括の項目があるので記載しておくこと。
教科書	「食に関する指導の手引－第2次改訂版－」（文部科学省） ※次のURLで公開されています。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm</a>
参考文献	講義内で適宜紹介する。
履修条件	①3年次までに開講されている教職科目のすべてを履修していること。 ②4年次前期に開講されている「栄養教育実習」を同時に履修すること。
備考	ゲストスピーカーの都合等により授業が変更になる場合がある。また、具体的な日程については指示に従う

	こと。上記以外に実習校で出向いて、栄養教諭や担任の先生などとの打ち合わせがあるので、注意すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択・栄養教諭免許必修
担当教員			
安部 貴洋・井間 眞理子・花屋 道子			
教職に関する科目			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：栄養教諭としての実践力と適性を高める</p> <p>到達目標：</p> <p>①これまでの学修や教育実習を振り返り、栄養教諭としての資質や実践力向上のための課題を明らかにできる。</p> <p>②教育実習や模擬授業などを踏まえ、「食に関する指導」を効果的に行うための指導案を作成できる。</p> <p>③学校教育や教職の意義、および教員としての資質の問題などについて自分なりに説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 教職課程におけるこれまでの学修の振り返り（履修カルテを用いて）</p> <p>第2回 教育実習の振り返りと課題の考察 栄養教育実習報告会の準備も兼ねて</p> <p>第3回 「食に関する指導」模擬授業のための教材研究</p> <p>第4回 「食に関する指導」模擬授業①</p> <p>第5回 「食に関する指導」模擬授業②</p> <p>第6回 「食に関する指導」模擬授業③</p> <p>第7回 教科の模擬授業を体験する</p> <p>第8回 校長経験者による講話—学校現場に求められる教員とは—</p> <p>第9回 現職栄養教諭による講話—栄養教諭として求められる資質とは—</p> <p>第10回 教員経験者による講話—生徒指導・教育相談に関して—</p> <p>第11回 学校見学（1） 小学校、中学校、特別支援学校のいずれか</p> <p>第12回 学校見学（2） 小学校、中学校、特別支援学校のいずれか</p> <p>第13回 教職課程での学びをふりかえる（1）</p> <p>第14回 教職課程での学びをふりかえる（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
成績評価・方法	講義への取り組み（小レポートや振り返り）100%
授業概要	この科目は、栄養教育実習での経験を踏まえ、栄養教諭としての実践力を高めることを目的とする。具体的な内容は次の通り。①履修カルテを用いて教職課程におけるこれまでの学修についての振り返りを行う、②教育実習の振り返りを行い、栄養教諭の職務と役割についての理解を深めるとともに、実践力向上のための課題を考察する、③教育実習を踏まえ、「食に関する指導」の指導計画・指導案を新たに作成し、模擬授業を行うことで、効果的な指導法や子どもとのかかわり方を考察する、④現職教員による講話や学校見学等を通して、学校教育や教職の意義、および教員としての資質や倫理について再確認する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ゲストスピーカーによる講話や学校見学等が終了した際に出される課題に取り組むこと、模擬授業については担当者だけではなく、関係者で協力しあいながら準備を進めること。
教科書	文部科学省「食に関する手引き ー第2次改訂版ー」 ※次のURLで公開されています。 <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1292952.htm</a>
参考文献	講義内で適宜紹介する。
履修条件	4年前期「栄養教育実習」を履修していること。
備考	ゲストスピーカーや見学学校の都合等により、授業計画が変更になる場合があります。